



シーティングの基礎<その2>

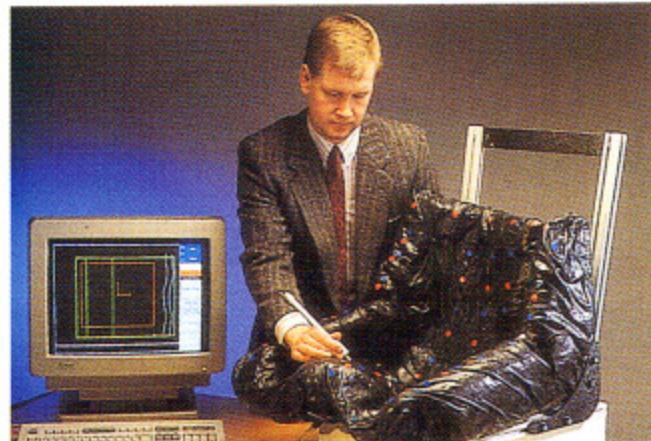
シーティングシステムの選択とチェックポイント

障害の程度とシーティング

川村 一郎



オットーボック社MOSS II



CAD CAMを利
用したCOSS



モールド



標準型車いすにオットーボック社
オプションを装備

障害者の使用するシーティングと言っても、障害の程度によって市販の椅子で対応できるものから、数人がかりで採型したモデルから手作りで製作されるモールドと呼ばれる手の込んだものまで千差万別です。その関係をごく大雑把に示してみました。

(障害の程度)

軽 度

中等度

重 度

(シーティングのタイプ)

市販の椅子(+α)、

標準型車椅子(+α)

モジュラー、MOSS II、

オルソチェア ピンドット

モールド、COSS

※ここで(+α)とは、/パッドや/バンドなどを意味しています。

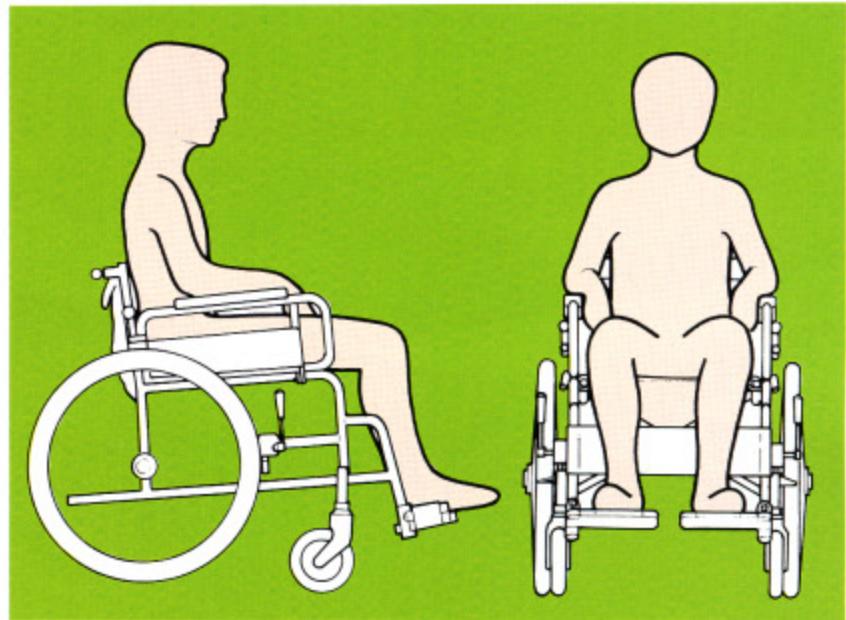
障害の程度が軽度であれば、必ず市販の椅子や標準型車椅子で対応できるとは限らず、場合によってはモジュラー型のシーティングを必要とされる場合もありましょうし、逆に重度であってもモジュラー型で十分な場合もあります。

シーティングのベースは骨盤

車椅子に座った時を例にしますと、右図のように十分深く（背もたれと骨盤の間にすき間がない）、また四角形で傾きがないことが必要です。安定した姿勢保持を得るためにベースは骨盤で「深く、四角に」が原則です。

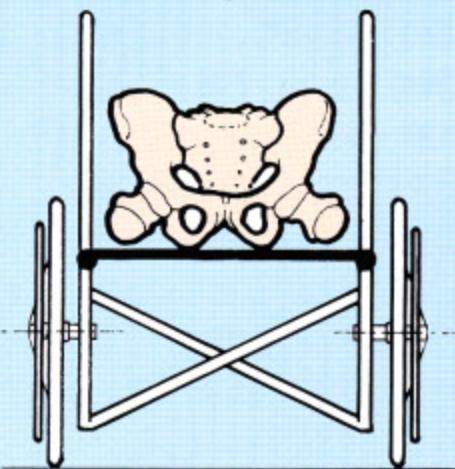
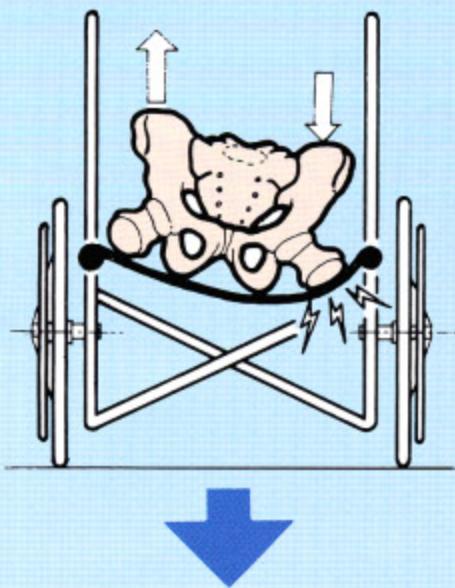
望ましい骨盤の状態

- 左右坐骨に均等に重力がかかる。
- 骨盤の傾き(前額面)が無い。
- 骨盤の傾き(矢状面)が正常。
- 骨盤のねじれが無い。



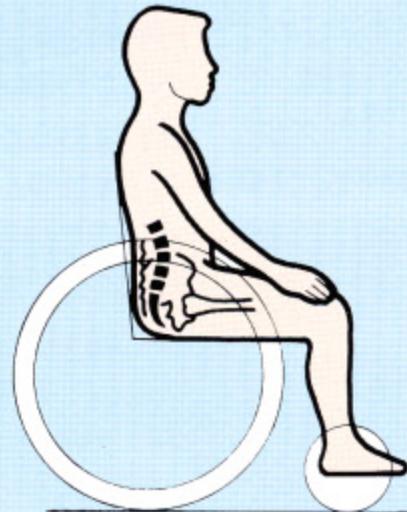
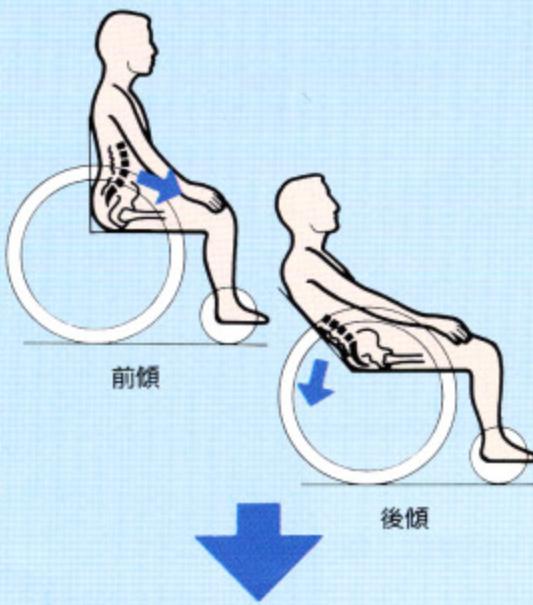
骨盤の位置チェック

骨盤の位置を正しい状態にするために、まず左右の腸骨陵の高さを同じにします。もし左右の高さに相違があるなら、骨盤の傾斜(pelvic obliquity)が存在することを示します。体重は左右の坐骨結節にかかりますが、できる限り左右均等でなければなりません。



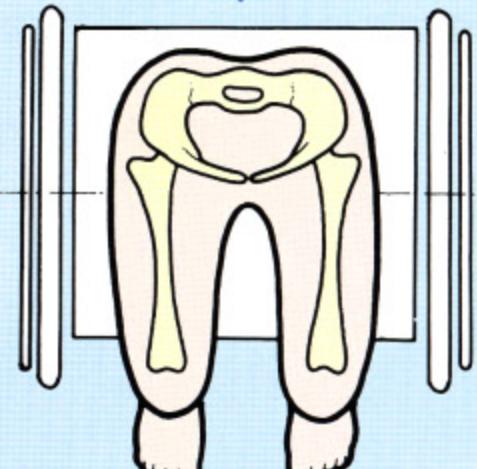
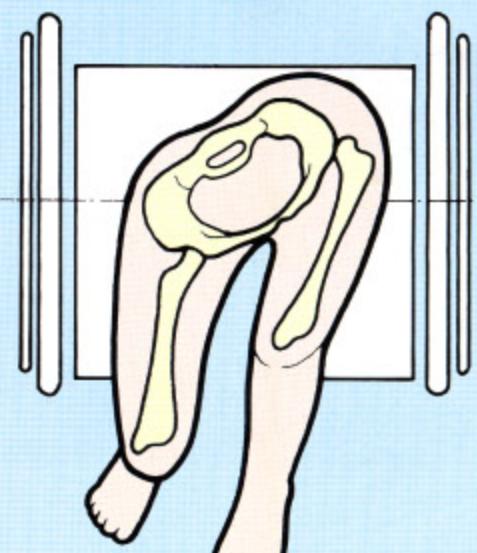
矢状面での骨盤の傾斜チェック

前傾も後傾もせず、中間位になるようにします。もし骨盤が後傾していると、仙骨に過大な力がかかりますので、そうなっていないかチェックします。



骨盤のねじれチェック

左右の腸骨前上棘のミスマライメントがみられるとき、骨盤のねじれ(twist)が存在することを示します。



骨盤のポジショニングには、極めてアクティブに骨盤を押したり、引いたり、上げたり、下げたり、いろいろやってみて、得られる最高のスタートティングポイントに達するまで行います。